

ひと

いえ
家

次世代巨大望遠鏡で宇宙最
初の星と第二の地球を探す

まさ のり
正 則 さん (60)



「遠い銀河は昔の銀河。その観測では、すばる望遠鏡がぶっちぎり。上位12位まで独占しています」。最遠方の世界記録129億光年先の銀河は、自ら開発した特殊なフィルターで発見しました。

自慢のすばる(口径8.2m)を圧倒する巨大望遠鏡をハワイに建設する国際計画で国立

天文台の責任者を務めます。直径14.4mの六角鏡492枚でつくる口径30mの望遠鏡。「月面の蛍の光でも観測できます。すばるでは赤いシミにしか見えなかった遠方銀河も構造がわかる。太陽系外惑星の大気を分析して、生命存在の証拠を探るという挑戦的なテーマに取り組みます」

早ければ2018年に始まる観測は次世代に託します。

「日本は科学と技術力の国。若い研究者にアイデアと夢をもって取り組んでほしい。国は教育・学術に力を入れて」と予算獲得をめざします。

大学で、数学者を志したものの挫折。天文学に進み、銀河の渦巻き模様ができるわけをつきとめました。その研究が、後で思わぬ役に立ちました。渦巻きの方程式をすばるの反射鏡の変形の補正に応用し、鏡の責任者として活躍。観測が軌道に乗るまでは鏡が割れる夢を何度もみました。

「アンドロメダ銀河の渦巻きの間から、奥の銀河が透けて見えたときはうれしかった」

高校時代に3畳の下宿で始めたギターは本格派。週末の夜ごと、天文台で奏でます。数年前、デビューアルバムを「冗談で」自作しました。

文・写真 中村 秀生